

## 2026年7月実績概要（メモ）

（2026. 8. 20）

エチレン生産の復調とともに誘導品類の定修規模の縮小も相まって、各製品とも一様に増産を迎える。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 372, 400トン

前月比 +28.5% (+ 82, 500トン)

前年同月比 ▲3.7% (▲ 14, 200トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比>   | <前年同月比> |
|------------|---------|---------|
| 日数増減       | + 3.3%  | —       |
| 定修要因等      | + 18.6% | + 8.1%  |
| 能力増減       | —       | —       |
| 稼働率変動      | + 6.6%  | ▲ 11.8% |
| 生産増減率      | + 28.5% | ▲ 3.7%  |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 66.6%\* → 当月 69.9% ← 前年同月 77.5%

定修プラント：前月 3社3プラント → 当月 2社2プラント ← 前年同月 2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加と定修規模差、オレフィン等の供給増加を受け、LDPE、HDPE、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなど16品目がプラス。ANのみは僅かなマイナスとなった。

前年比は、主に定修規模差や稼働率要因から、HDPE、PS、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの12品目がプラス。SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマーなどの5品目はマイナスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加に加えて、主に定修規模の縮小もあり LDPE、HDPE、PP、PS とともにプラス。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から LDPE、HDPE、PP、PS でプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、暮らし向きや雇用環境の改善などから持ち直しの動きが見られているが、物価に関しては、上昇の見方が続いている。国内の生産活動では、7月の段階では、生産用機械、電子部品・デバイス工業等で上昇が見込まれており、トレンドとしても強気の見方が多くなっている。

汎用樹脂では、国内向けの出荷は安定供給を続けているものの、当月はやや鈍化し、前月比は LDPE、PP、PS で微減となった。前年比では LDPE、HDPE、PP、PS とともにマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、包材分野の出荷は、LDPE、HDPE、PP、PS とともに前年比でマイナスとなった。包材以外の出荷分野では、LDPE、HDPE はほぼ全ての出荷分野で前年を下回った。PP、PS でも多くが前年を下回り、PP の射出成形分野の工業部品向け、PS の FS 分野のみが前年を上回る程度に留まった。

ハ) 輸出

中東情勢の緊張の高まりもあり原料相場の上昇が見られるも、市場では買い急ぐ動きは見られず、様子見の状態が続いている。

前月比では、LDPE、HDPE はプラス、PP、PS はマイナス。前年比では、LDPE、PS はマイナス。HDPE、PP はプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP で減少し、HDPE、PS は増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PS とともに上昇した。

在庫水準としては、LDPE、HDPE はやや高め、PP、PS はほぼ適正水準となっている。

|      | 前月対比増減量<br>(単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) |     |
|------|--------------------|------------------|-----|
|      |                    | 6月末              | 7月末 |
| LDPE | ▲ 6, 600           | 3.2              | 3.4 |
| HDPE | + 7, 500           | 3.5              | 3.7 |
| P P  | ▲ 18, 800          | 2.7              | 2.9 |
| P S  | + 11, 400          | 1.7              | 2.0 |

前月からの修正を\*で付記

以上